

## 2012 朝鮮通信使祭り in 釜山 ～元祖韓流ブームは江戸時代？～

ソウル事務所

### ■はじめに

江戸時代の日朝外交に貢献した「朝鮮通信使」を再現したパレードが、2012年5月5日(土)に韓国・釜山広域市で行われ、日・韓のパレード参加者約1,100名が華やかに練り歩きました。

クレアソウルからは、安本俊夫所長が来賓として招待を受けて出発セレモニーに参加したほか、長崎県の依頼を受けて、島原市からの参加団体に対する活動支援を行いました。

本レポートでは、5月4日から6日まで開催された「2012年朝鮮通信使祭り」の中から、メインイベントといえる“朝鮮通信使パレード”の様子をお届けするとともに“朝鮮通信使の歴史”について簡単に紹介したいと思います。

長崎県に対する活動支援の様子は、別にレポートしていますので併せてご覧ください。



朝鮮通信使の正使役  
김은숙 (キム・ウンスク) 釜山市中区区長

### 【概要】<sup>1</sup>

**催事名：**2012年朝鮮通信使祭り

**主催者：**(財)釜山文化財団

**日程：**2012年5月4日(金)～6日(日)

5月4日：朝鮮通信使国際学術シンポジウム、海神祭ほか  
5月5日：朝鮮通信使パレード、縁故都市交流大会～交流の夜(晩餐会)ほか  
5月6日：ミュージカル「対馬物語」ほか

**会場：**龍頭山公園広場 および 光復路(周辺道路)

**パレード参加団体：**韓国側 20団体(約900名)

日本側 8団体<sup>2</sup>(約200名)

**総観覧客数：**約320,000人

**参加者の声：**

- ・教育的、文化的、エンターテインメント的要素を含む素晴らしい祭りだ。
- ・日本の公演団がいつも笑顔で、写真撮影にポーズを決める姿が素晴らしいかった。
- ・朝鮮通信使祭りは多くの人々に多様な歴史文化に対して考える時間を与えたのではないだろうか。

<sup>1</sup> 主催者の提供資料を基に作成

<sup>2</sup> 長崎県対馬市武士団、島原市不知火連、佐世保市青嵐、福岡市野和太鼓、北九州市女無法松の会、山口県下関市スタジオフォル、広島紅葉連、21世紀友情ウォーク

## ■本番前の街頭公演

パレードコースとなる光復路では、朝鮮通信使パレード本番を前に、日本を含む参加団体による街頭公演が行われ、本番前から盛りあがりを見せました。

5月5日(土)は天候にも恵まれたうえ、日本同様、韓国のこどもの日(オリニナル)であったため、子供連れの家族や地元の若者、観光客など多くの人々で賑わいました。

見物客の中には、韓国語に交じって日本語も多く飛び交っており、ゴールデンウィーク中の日本からも多くの観光客がいらしていたようです。



パレード開始前から黒山の人だかり

## ■朝鮮通信使パレードの開始

出発セレモニーには、韓国側として本イベントの主催者である(財)釜山文化財団남송우(ナムソウ)代表理事をはじめ、허남식(ヘナムシク)釜山市長らが出席し、日本側としては、在釜山日本国総領事館の余田幸夫総領事のほか、長崎県、広島県など朝鮮通信使にゆかりの深い地方自治体から多くの方々が出席しました。クリアソウルからも、安本所長が来賓として招待を受け、ボタン式の出発セレモニーに臨みました。

司会者によるカウントダウンの後、ボタンが一斉に押されると、色鮮やかな風船と紙吹雪が空高く舞い上がり、これを合図に朝鮮通信使パレードがスタートしました。



出発セレモニー(ボタン式)に出席する安本所長(右端)



マスコットキャラクター  
㊦ 정서방(ジョン・ソバン)と㊦ 훈동이(フン・ドンイ)



朝鮮通信使を護衛する対馬武士を再現



朝鮮通信使の一行

パレードの途中、あらかじめ設定された3つのポイントで各公演団によるパフォーマンスが繰り広げられました。沿道には大勢の観客が詰め掛けて、写真を撮ったり、手を振ったりして朝鮮通信使と公演団を歓迎していました。

見物している韓国の方々を観察してみると、日本側の公演中は、日本の太鼓や踊り、リズムに興味を尽きないようすで、パフォーマンスが終わると大きな拍手で応えていました。また、韓国側の公演中は、大きな声で合いの手を入れながら、一緒に歌ったり体を揺らしたりとノリのいい韓国気質を感じる事ができました。



日本側のパフォーマンス



韓国側のパフォーマンス

### ■交流の夜（晩餐会）

パレード終了後の夜には、「交流の夜（晩餐会）」が開催され、日本側を代表して財部能成対馬市長が挨拶を行いました。要約は以下のとおりです。

「昨日、（通信使の船出の無事を祈った）永嘉台で朝鮮通信使の出発式の再現を見ていた。（通信使の三役である）正史・副使・従事官が、海の神に旅の安全を願うものだと思う。長い時間ずっ



永嘉台の海神式（写真：釜山文化財団提供）

と神にひざまずいてお願いをするというセレモニーであったが、私自身は昨日対馬から釜山にわずか1時間10分の船旅で安全に到着した。400年前の海の神様に願う気持ちと現在の状況の差に愕然とした。要するに、私ども（日本人）は、朝鮮通信使が神に祈りながら海を渡って日本に来たということをしっかり理解しなければいけない。」

また、主催者である（財）釜山文化財団 남송우(ナム・ソウ)代表理事から日本の参加団体に対して感謝の楯が贈呈されました。



感謝の楯 贈呈

## ■朝鮮通信使の歴史

朝鮮通信使とはそもそもどんな人々をいうのでしょうか。

朝鮮通信使は、徳川幕府の要請により朝鮮から派遣された公式の使節団でした。豊臣秀吉の朝鮮出兵という苦い経験乗り越え、1607年から1811年までに計12回来日しました。鎖国政策をとっていた徳川幕府の時代にも関わらず、朝鮮とだけは国書を交換し、正式な国交を結んでいました（長崎における中国、オランダは貿易のみ）<sup>3</sup>。

“通信使”は、「信（よしみ）を通じる」という意味を持っており、まさに信頼を基に築かれた朝鮮と日本両国の平和的外交関係を象徴するものでした。一行は、「正使」「副使」「従事官」の三使はもちろん、「通訳」「書家」「画家」「医者」や「僧侶」など合わせて500名ほどになり、日本からの警護などの人数を合わせると2,000人を超える大行列になったと言われています。

旅の先々では、多くの文人たちと筆談で交歓し、またその行列は、多くの民衆に熱狂的に迎えられるなど、日本の各階層の人々の文化交流に大きな役割を果たしました。まさに、今日の韓流ブームの元祖として位置づけられるのではないのでしょうか？

## ■おわりに

本イベントで特に感じたのは、ここに集う人々の熱意でした。参加した団体同士は、まるで友達のように近くに寄り添い、ともに朝鮮通信使の再現を喜び合い、手と手を取り合って積極的な交流を行っていました。まさに隣人交流。国は異なるものの、お互いの気持ちは極めて近くにあったものと感じています。

我々の先祖は、朝鮮出兵という苦い歴史を乗り越え、日朝間の友好と平和を獲得してきたという歴史的事実があります。朝鮮通信使に対する先人の努力に学び、現代に生きる我々

<sup>3</sup> 日韓共通歴史教材 「朝鮮通信使」(日韓共通歴史教材製作チーム編) p.9

も、これまで以上に国際理解を深め、異文化に親しむ喜びを見出し、たゆまぬ努力を続けていきたいものです。

さて、このイベント参加にあたり、クレアソウルでは長崎県に対する活動支援を行いました。その様子は、「[ソウル事務所の海外活動支援日誌～2012 朝鮮通信使祭りにおける支援 in 釜山～](#)」<sup>4</sup>でお届けしたいと思います。

(菊地所長補佐 茨城県派遣)



<sup>4</sup> CLAIR メールマガジン 2012 年 6 月配信号記事「ソウル事務所の海外活動支援日誌～2012 朝鮮通信使祭りにおける支援 in 釜山～」 [http://www.clair.or.jp/j/forum/c\\_mailmagazine/201206/2-2.pdf](http://www.clair.or.jp/j/forum/c_mailmagazine/201206/2-2.pdf)